

LUMINE Sustainability Information コスメロス削減に向けた取り組みレポート

化粧品の廃棄は、実はまだあまり知られていない環境問題の一つです。「生産過程などで化粧品メーカーから出る化粧品の中身（バルク）の廃棄量は国内の大手メーカー5社だけでも年間2万トン」※とも言われており、毎年膨大な量のロスが発生しているとのことです。

※参考記事 [（毎年約2万トン以上のコスメが捨てられる時代に私たちができること | COLOR Again開発秘話 | 株式会社モーンガータのストーリー | PR TIMES STORY）](#)

そこでルミネは、コスメロス削減とサステナブルな未来づくりに向けて、活動を始めました。まず最初の取り組みとして、2025年1月に第一回目の「コスメリゴランドストア」をルミネ新宿で開催。箱潰れなど、中身には問題がないものの、正規販売できなくなった商品を特別価格で販売し、好評を得ました。今回、2025年7月のエシカーニバル期間中にルミネ6館で回収した不要コスメの数は、約17,800個、重量にすると約445kg（容器＋中身）を記録しました。コスメ回収によって廃棄を回避した結果、焼却処分に比べて約298.1kgの二酸化炭素排出量を削減できることになり、84.78%の削減率を達成しました。

■コスメ廃棄問題の背景

化粧品業界は年間数兆円の市場規模で成長を続けていますが、その陰で、廃棄される大量の原料やコスメ商品による環境への影響が懸念されています。

このコスメロスには、大きく分けて3つの段階があると考えています。

① 製造段階でのロス

化粧品メーカーから出る、試作段階で発生する原料（バルク）廃棄。

国内メーカー上位5社だけで年間約2万トンも発生しているとも言われています。化粧品は季節や流行に応じて頻繁に新商品が投入されるため試作回数も多くなり、バルク廃棄が膨大な量に膨らんでいます。

② 販売段階でのロス

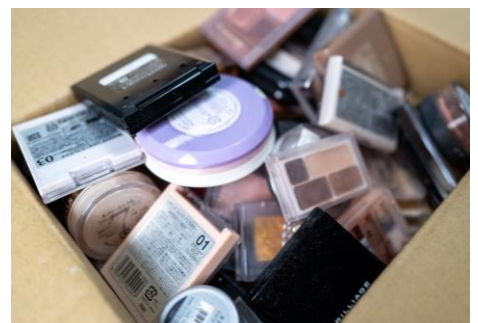
製品化されたものの、箱の損傷などにより通常販売が難しくなったコスメや、余剰在庫として行き場を失った商品。一部はアウトレットやEC販売される場合もありますが、廃棄されるケースも多々あります。

③ 消費者段階でのロス

購入した後、使いきれずに家庭で廃棄されるコスメ商品。特に、カラーコスメ（アイシャドウ、リップスティックなど）は流行や気分で使い方が変わるため、未使用のまま廃棄する割合も高いことが確認されています。

※モーンガータ社の調査では、86.3%の化粧品ユーザーが化粧品を使い切れずに捨てているという結果があります。

※特に廃棄されるケースが多い粉末系のアイシャドウやフェイスパウダーなどは、水溶性ではないためリサイクルや再利用が困難。



ルミネでは、このうち②販売段階と③消費者段階のロスに着目し、「コスメリゴランド」を通して、箱潰れなどが理由で正規販売できない品をブランド価値を毀損しない形で特別価格で販売するとともに、不要コスメの下取りキャンペーンを実施して廃棄商品削減に取り組んでいます。

○コスメ廃棄にまつわるそのほかの問題点

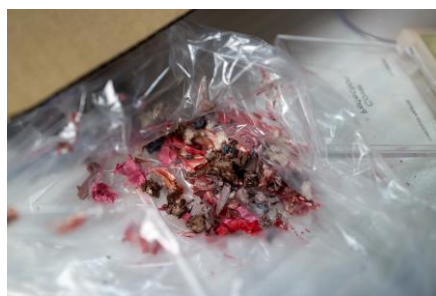
- ・化粧品容器リサイクルの困難さ

化粧品容器は複合材質（プラスチック、ガラス、金属、鏡など）で構成されるため、そのままではリサイクルが難しい面があります。ただ、こういったパッケージも資源として素材別に分別すれば、繊維などへ再生することが可能です。中身を掻き出した後の回収コスメのケースについても、資源再生ができる量に達した時点でリサイクルすることを目指し、保管しています。

■回収した下取りコスメはどこへ行く？

さて、ルミネがお客さまから回収したこれらの不要コスメは、その後どこへ行くのでしょうか。今回、ルミネでは、回収後のコスメを委託する協力会社を(株)モーニングタータ1社に集約することで、回収後の流れを明確に把握する取り組みを始めました。

回収したコスメを資源再生するためには、パッケージから中身をひとつひとつ手作業で掻き出して、色やテクスチャーごとに化粧品の顔料を選び分けていくという地道な作業があります。今回、ルミネ社員もルミネ各店で回収したコスメの掻き出し作業に参加しました。



■(株)モーニングタータとの連携で、廃棄コスメが生まれ変わる

(株)モーニングタータは、化粧品の廃棄という業界課題に対し、化粧品の成分そのものを再活用するアップサイクル事業を展開しています。BtoB事業では国内の化粧品メーカーと提携して廃棄原料を集め、その資源を活用してアクリル板や建材ボード、紙再生ボードなど発色の良さを生かした新たな品を作るなど、さまざまな企業と協業して廃棄コスメの資源活用を進めています。化粧品ならではの美しい発色を生かした建築資材（アクリル板やカラーコンクリート素材、内装用カラーボード、紙再生ボード、ラメ入りのカラー金属板（粉体塗装技術）など）は人気があるそうで、サステナブルな考え方に賛同する企業が内装材として採用する例も増えてきているとのこと。耐水性を強化して布製品にプリントできる（＝洗濯可能）インクになったり、革製品の着色に応用したりと、廃棄されるはずだったコスメ原料は幅広い用途で再度社会に還元されていきます。廃棄化粧品の顔料を活用したカラーインクペンは、書き心地と発色の良さに驚くほどでした。きらきらとした微細なラメがそのままインクに活かされていて、描く楽しみを実感できました。



このような画材としても、伝統工芸のアーティストがねぶた祭の山車の着色塗料として使用するなど、注目が高まっています。そして、BtoC事業では消費者自身の手元にある不要化粧品の「magic water（株）モーニングタータ特許技術）」という特殊な溶液で簡単に絵の具や雑貨用の色材に加工できる商品を提案し、各家庭でも廃棄コスメを再活用できる取り組みを展開しています。

(株)モーニングタータが重要視するのは「楽しみながら廃棄品を有効活用し、新たな価値をもたらす」こと。これはルミネの「楽しく社会課題を解決する」という理念とも一致しています。消費者が自分ごととして取り組める体験を提供し、小さな行動が持続可能な化粧品業界の未来をつくる——ルミネとモーニングタータは、コスメ業界が抱える廃棄問題に切り込み、サステナブルな未来を作るための革新的な挑戦に、信念をもって取り組んでいます。

■下取りコスメを再資源化し、ルミネ各館での活用を目指す

ルミネで回収したコスメの顔料を再生・活用した建材は、今後、エシカーニバルの施策や装飾等で活用できないか検討しています。回収した資源を再生し、実際に循環していることをお客さまにも実感していただける形で還元していく。手間もコストもかかりますが、ルミネはあえてそこに挑戦していくことで、「エシカーニバル」や「コスメリゴランド」と共に、サステナブルな未来に向けた活動を展開していきます。